巻頭言

『sabo』100号に寄せて
―センターの活動を超える機関誌を目指して―

西田 一孝 にしだ かずたか
『sabo』編集委員長
共和コンクリート(株) 特別顧問

砂防・地すべり技術センターは昭和50年7月に財団法人として設立され、その10か月後、昭和51年4月1日に『SABŌ』創刊号が発行された。その後33年を経てこのたび100号を迎えたことは慶賀にたえない。

創刊号のトップを飾る初代理事長の戸田福三郎氏(故人)の「『SABŌ』創刊に際して」には、設立に際し関係官公庁、その他関係各界の広範囲の支援を得て設立されたことについての謝辞を述べた後、「このたび本センターの業務の概況などを賛助会員の皆さんにお知らせするために会報『SABŌ』を1年に数回発行することにいたしました。……なお、賛助会員および関係各機関の皆さんにいろいろ意見をお聞かせ願って、本センターの運営に反映させるとともに賛助会員に魅力あるものとしていきたいと思います」とセンター発足の喜びや将来への期待にあふれる様子が伺える。

また専務理事の谷勲氏(故人)は、「センターの今後の抱負」と題して、「砂防関係事業は国土の保全と自然環境の維持、保全の中核をなすものであり、水資源の確保においてもその役割はきわめて重要なものとなっているが、技術の応用体制はこれらの要請に対して未だ不十分であり、即応しきれていないのが現状である。本センターはこのようなことを背景として、時代の要請に対応するため各界に分散している砂防関係学識経験者の活用により、より高度な砂防技術の結集ならびに境界領域(地形・地質・地球物理・水文・水質・土木など)における学・官・民の知識の集約とその拡大をはかるべく――中略――設立されたものである。今後は砂防関係技術の幅広い、また緊急な諸問題を解決していくための研究と応用機関として、あるいは学・官・民の砂防関係技術をつなぐパイプとして、その役割を果たすよう努力していきたいと思っている。―中略― 将来はシンクタンクとしての活動ができ得るような体制を整え、国内のみならず海外をも含めた土砂災害防止の拠点となるべく関係者一同相携え、全精魂を傾けて積極的に事業の展開を図っていきたいと考えている」とその設立に際しての抱負と展望に向けた意気込みを述べておられ、当センターのその後の発展充実ぶりを見るにつけ、その慧眼に驚かざるを得ない。

創刊時にはB5判8ページモノクロ印刷の「会報」としてスタートした『SABŌ』は、現在はA4判、ページ数40前後の完全カラー化された体裁となっている。そして年4回3000部が定期発行され、国土交通省の直轄事務所、都道府県・大学・研究機関等に無償配布されて本センターの充実ぶりを反映している。

当誌はセンター機関誌としての設立趣旨と目的のため、おのずとその内容は専門的にならざるを得ない面もあるが、他の砂防関係の書物(砂防学会誌、『治水と砂防』等)とは異なる位置付けを意識しつつ、専門外の方々にもご理解いただけるよう、幅の広い読み物としての内容を考慮に入れた編集に努めている。そして、さらには当センターの活動、活躍の報告にとどまらず、それを超えた影響力を持つ機関誌と評価されることを目指していくことが必要であると思われる。